



私は、宇都宮共和国大学子ども生活学部で保育や子育て支援を学んでいます。コロナ禍での実習では、2週間前からアルバイトを自粛し、健康管理を徹底して準備しました。そして、認定こども園の年中児クラスで3週間、貴重な経験をさせていた

宇都宮共和国大学子ども生活学部



実習先の認定こども園で園児と触れ合う渋谷さん(左)

「子どもも主体」大切さ実感

いただきました。今、実習を振り返ると「楽しかった！」の一言と呼ばれ、慕われました。です。一人一人の子どもとしっかり関わることを

特に心掛けました。すると、園児から「愛先生ー」と呼ばれ、慕われました。

「先生」として受け入れてもらうことに喜びを実感しました。

感じました。

クラス担任の役割を担う「責任実習」では、子どもの発想を基に活動したいと考え、「お祭り」をテーマにしました。園児たちはお店屋さんの飾り付けをしたり、お客さんになったりと、それぞれやりたい遊びに積極的に取り組んでくれました。

子どもたちのアイデアをつないでいくと、クラス全体にワクワクした楽しい雰囲気広がりました。この実習を通して「子ども主体」の保育の意義を改めて実感することができました。

これからも、子どもの頃から「夢」である保育者になることを目指して、クラスメートと切磋琢磨してまいります。

渋谷さん(宇都宮共和国大学子ども生活学部4年)

みやもつと

ま